

P-3

三鷹市「緑のボランティア講座」活動報告

佐野 光昭（三鷹市緑と公園課） 濱野 周泰（東京農業大学）

西村 直人（東京農業大学） 麻生 恵（東京農業大学）

自治体が緑地の維持管理に費やす労力と費用は、省力、省コストの傾向が強くなってきている。緑地の利用促進や機能の充足を促すと、その負担は増加する。このような状況の中で自治体はボランティアを導入した管理により公共財産としての緑地の価値を高めようとする動きが起きている。三鷹市も市内の緑地管理を市民との協働により実施するために、その組織づくりを行っている。三鷹市緑と公園課が主幹となり平成16年に第1回の緑のボランティア講座を開催した。プログラムは10月から12月の間、午前中講義、午後実技という内容で6回開催した。初回はコマツナの種蒔きを行い植物を取り扱う意識を鮮明化させた。徐々に1本の樹木の剪定から樹林管理としての林床の刈払い、間伐に至るまで内容を専門特化し第6回の講座で終了した。受講者には三鷹市長と講座主任との連名による修了書が授与された。

P-4

環境学習のための富良野研修ツアー報告

濱野 周泰（東京農業大学） 二階堂由紀（東京農業大学） 牧 昌代（東京農業大学）
栗田 和弥（東京農業大学）

全国の小中学校や高等学校などで総合学習あるいは、週休二日制の導入に伴い学校外での様々な体験・自然学習の活動が行われている。北海道富良野市では、全国に先駆けて林野庁の森林管理署と教育機関との間で協定が締結され、「遊々の森」を開放している。発表者らは芦別岳の登山口である「遊々の森」を含む場所での宿泊所に滞在し、富良野の里山と東京大学北海道演習林において、環境教育のプログラムを実践した。東大演習林は、森林の生態系を維持するため、林分施業法が行われ健全な森林が持続されている。現地を訪れ、現実に触れることは、文献情報を具体化させることにつながった。北海道の植生、地域特有の樹種、植物分布を把握し理解することに大きく貢献した。環境を理解することは、実物を体験することが重要であり、環境学習の場として森の仕組みを体験することは、物質循環の根底を知ることとなったのでここに報告する。